

# 令和元年度宮崎県普及指導活動外部評価会の結果報告資料

センター名	プロジェクト名	主な意見・提案				普及活動等への対応方針
		計画の策定	活動の経過・実績	成果目標の達成状況	その他	
南那珂	産地ビジョンに基づいた主要施設果樹の生産安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆儲かる農業の実現に向け、地域の実情に即した適切な課題設定となっている。</li> <li>◆関係機関が連携して生産農家をバックアップできる目標設定となっている。</li> <li>◆きんかんやマンゴーは全国的に知名度が向上しており、更なる生産性向上と品質安定を図る取組が必要。</li> <li>◆作付面積や就農者数の確保といった視点からの課題設定が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆課題全般で精力的な活動が評価できる。</li> <li>◆チェックシートの活用や展示圃の設置など、生産農家に分かりやすかつ取り組みやすい活動が高く評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆マンゴーのA品率やきんかんの販売額などが着実に向上しており、達成状況は概ね順調。</li> <li>◆到達目標の多くが計画期間半ばで達成されているが、活動が想定以上に成果を挙げた結果なのか、目標値の妥当性に検証の余地がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆果樹ブランドの更なる推進に向け、関係機関一体となった取組が必要。</li> <li>◆5年計画ではなく、もっと先を見据えたプロジェクトも必要ではないか。</li> <li>◆栽培技術のノウハウ共有のための取組は、地域全体へ大きな波及が期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●本プロジェクトの目標達成のため、引き続き産地ビジョンに基づく各種取組を関係機関と連携して計画的に進めていく。 また、産地ビジョンの見直しや進行管理に注意して活動する。</li> <li>●若手学習会を充実させて意欲向上を図り、規模拡大を推進するとともに、定年帰農者や他品目からの新規参入者等担い手の確保に努め、産地の維持・発展を目指す。</li> </ul>
	スイートピー生産農家の経営安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆地域の実情に即した計画が策定されており、到達目標、普及課題の設定も適切である。</li> <li>◆スイートピー産地の縮小に歯止めをかけるための計画には一定の評価はできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆温暖化対策への粘り強い取組や経営チェックシートを利用した「生産者自ら」が経営課題を認識するための意識づけの取組は高く評価できる。</li> <li>◆細霧冷房やブルーフレグランスの導入などの取組が評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆目標達成への進捗状況は順調とは言えない。高齢化と労働力不足による生産者数及び栽培面積の減少を克服できる、スマート農業や収益性の高い代替作物が開発され、地域全体へ波及させることが必要。</li> <li>◆細霧冷房など新しい技術の導入による収量向上は一定の評価ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆品目単体でなく、経営全体を捉えた普及活動が望まれる。</li> <li>◆スイートピーのみでは農業経営は難しく、他の収益作物と組み合わせた経営モデルの構築が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スイートピー産地の縮小に歯止めをかけるため、引き続き生産安定対策の普及や自ら経営課題を解決できる生産者の育成に努める。</li> <li>●省力化や更なる生産性向上を図るための新技術については、試験研究成果等を参考にしながら費用対効果を分析し、導入の有無を検討する。</li> <li>●スイートピーと組み合わせ可能な品目については、経営担当や他品目の担当と連携し、花き以外の品目との組み合わせ事例を分析し、経営モデルの構築を図る。</li> </ul>

令和元年度宮崎県普及指導活動外部評価会の結果報告資料

センター名	プロジェクト名	主な意見・提案				普及活動等への 対応方針
		計画の策定	活動の経過・実績	成果目標の達成状況	その他	
北諸県	活ある施設野菜産地の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ICT技術を導入したハウス内環境管理など、作業省力化や品質向上に向けた計画が立てられている。</li> <li>◆新規就農者の相談体制や早期定着に向けた取組もあり、課題に合った計画と評価できる。</li> <li>◆課題設定は適切であるが、販売先確保や価格設定などの課題にも取り組む必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆炭酸ガス施用等、収量向上のための技術の普及が図られているところが評価できる。</li> <li>◆スマート農業の実践等、産地改革の先導的な取組を展開していることが高く評価できる。</li> <li>◆新規就農支援として、JAと連携した中古ハウスのマッチング支援は有効。</li> <li>◆各自自治体と連携した新規就農者への生活支援の充実が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆新規就農者の確保で一定の成果があったと評価できる。</li> <li>◆プロジェクト全体としての到達目標達成に不安がある。</li> <li>◆高レベルの取組の成果を正確に分析し、横展開・地域全体への拡大が望まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆施設野菜のみでは経営安定は難しい。+αでの経営モデルの構築が必要。</li> <li>◆中心的な担い手や生産組織のリーダーが持つ高い技術とエネルギーを産地の将来に繋げる取組が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●産地分析に基づき、新規就農者や低収量農家の生産性向上に向けた支援を強化する。さらに市町と連携し、空き家情報や子育て支援等の生活支援も含めた新規就農者確保の取組を強化する。</li> <li>●取組成果をわかりやすくモデル化し、産地での横展開を図る。また、高度技術のマニュアル化と継承を進めるとともに、ICTなど先進技術の導入を推進する。</li> <li>●施設園芸農家の経営安定を図るため、地域の実態を踏まえた複合経営品目の提案や栽培技術の普及を行い、経営モデルを実証する。また、産地ビジョンに基づき、販売先の重点化や目標価格達成のための取組を強化していく。</li> </ul>
	全国に誇る肉用牛産地の維持と収益性の高い肉用牛経営の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆農家数、頭数とも減少傾向にある中、生産性向上や新規就農者確保、飼料供給体制の構築など、現在の課題に対応した計画となっている。</li> <li>◆コントラクター組織など農作業受委託組織の活用による飼料供給体制の構築が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生産性向上や飼料供給体制の構築など、それぞれの課題に合ったきめ細かな取組が評価できる。</li> <li>◆バーンミーティングなど課題解決のための効率的な活動が評価できる。</li> <li>◆新規就農者の確保・育成に向け、地域や関係機関の連携した活動が評価される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆多くの産業で人材不足が課題となる中、5名の新規就農者を確保できたことは評価できる。</li> <li>◆規模拡大農家について、現時点で目標をクリアしており、取組成果があったと評価できる。</li> <li>◆目標達成への進捗状況は順調とは言えない。生産農家の高齢化や労働力不足を克服できる、効率的な飼養管理技術が地域全体に波及することが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆本県畜産振興を先導してきた地区であり、生産基盤の維持発展が今後も必要。</li> <li>◆生産者組織のリーダー活用による技術の掘り起こしと組織の活性化・強化対策が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●省力化や軽労化が期待されるICT技術の習得を図るため、JA等と連携し、研修会の実施やモデル農家の優良事例の普及を進め、効率的な飼養管理技術を地域全体に波及させていく。</li> <li>●規模拡大農家や新規就農者の確保・育成を強化し、生産基盤の発展を図る。また、飼料供給体制の構築においては、地域の実状に即した農地利用型のTMRセンターの設置に向けた検討を関係者とともに進めていく。</li> <li>●飼養管理の優良事例集作成や畜舎環境の調査結果に関する研修等を通じ、JA部会等の活性化・強化を図っていく。</li> </ul>

# 令和元年度宮崎県普及指導活動外部評価会の結果報告資料

センター名	プロジェクト名	主な意見・提案				普及活動等への対応方針
		計画の策定	活動の経過・実績	成果目標の達成状況	その他	
西諸県	にしもろ農業の明日を元気にする担い手の確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆新規就農者の確保や若手農家の育成は最重要課題であり、適切な計画である。</li> <li>◆きめ細かな計画と関係者一体となった実践が地域農業の発展につながっている。</li> <li>◆新規就農定着率やセミナー参加者数などの目標設定が具体的で良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆新規就農者の就農定着に向けた関係機関の連携した取組が評価できる。</li> <li>◆プロジェクト活動実践率が高い傾向にあり評価できる。</li> <li>◆技術継承のためのデータ化や複数回研修など、きめ細かな活動支援により成果が出ていることが評価できる。</li> <li>◆担い手を育成することは地域農業の安定的な発展に必要であり、慎重に確実に対応することが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆全国青年農業者会議プロジェクト発表で農林水産大臣賞を受賞するなど、素晴らしい成果が収められている。</li> <li>◆アグリベーシックセミナーでの学習内容理解者率が下がっており、もう少し研修内容の工夫が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆SAP以外の若手農業者に対してどのように支援するのか。</li> <li>◆担い手対策は、農業施策において最も重要な取組の一つであるため、産地の未来を明るくできるような人材育成に取り組んでいただきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●セミナーでの説明や資料等研修内容を工夫することで、学習内容理解者率の向上に努める。</li> <li>●各品目の基本プロジェクトにおいても「新規就農者の育成と就農定着」を普及課題に設定・支援するとともに、産地ビジョンの目標達成に向け、各種農業者研修の実施やトレーニングセンターと連携した人材育成を図る。</li> </ul>
	次代へ繋げる”にしもろ”果樹の産地力強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆課題設定は適切だが、後継者不足の対策が必要（リタイア農家と新規就農希望者とのマッチング等）</li> <li>◆GAPに対応できる産地体制づくりに向けての計画的・段階的取り組みなど、産地改革を実践的に取り組む計画は適切である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆経営力やブランド力向上に積極的に取り組む姿勢が高く評価できる。</li> <li>◆品目横断的な取組など、地域農業を総合的に推進するところが評価できる。</li> <li>◆ひなたGAPの取組は、作業の効率化や職場の安全・品質向上に向けた有効な活動である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆連携の取れた取組で「質」に関する目標達成の進捗は順調と評価できるが、「量」の面では、必ずしも順調とは言えない。就農者数や栽培面積の増加に向けて、従来の延長に留まらない新しい取組が必要。</li> <li>◆ひなたGAP認証、収量、生産額の向上が認められ評価できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆生産部会の個々の経営安定・発展、組織全体の更なる発展に向けた取組に期待する。</li> <li>◆西諸県地区の畜産以外での農業振興策の強化は必須である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第三者を含めた経営承継を計画的に支援することで担い手の確保を目指す。</li> <li>●農業者の高齢化・担い手の減少に伴う生産量・生産額の減少を抑制するために、農業者や関係機関団体と連携し、経営や生産技術の向上等の生産力向上や労働力確保等の担い手の育成確保及び販売強化等を内容とした産地ビジョンを総合的に進めることで農業経営の安定と産地（部会）の発展を図る。</li> </ul>